

持たない、が正しい選択



**原水爆禁止
世界大会**

in 広島



慰霊碑に平和を誓う

今年の大会は、1日目の参加は1300人、オンライン参加は900カ所でした。例年より短縮された開催であり、8月4日の午後から5日にかけて開会総会と国際会議の様子、6日は閉会総会をオンライン視聴しました。オンライン会場に集まった参加者は、真剣なまなざしでスクリーンを見つめ、海外代表などの

本当に被爆国の首相なのか

原水爆禁止世界大会が、3年ぶりに現地・広島で開催されることになりました。しかし、直前にコロナ感染の拡大があり、参加予定の職員はオンライン視聴となりました。

今年大会では、被爆者の平均年齢は84〜85歳となっており、核兵器禁止条約が締結された中、核兵器を早急に廃止し、平和な世界の実現を呼びかけられました。

国際会議では、日本の状況として、岸田首相がNPT（核不拡散条約）会議の参加と同時に、日米拡大抑止協議を行なっていることが報告されました。この協議は、有事の際にアメリカの核兵器使用の保証を確認しあうものであり、「本当に被爆国の首相なのか」と疑

いたくなりました。

人間性をも破壊する核兵器

終了後に行なった感想交流では、「原爆で被害を受けたうえに、被爆く

したことで就職や結婚でも差別され、被爆者であることを隠して生きなければならなかったことを聞き、核兵器が人々のいのちだけではなく、人間性をも破壊する恐ろしいものだ」と改めて感じた、「核兵器を持つ国の方々でも核兵器の危険性を学び、運動してい

る。平和の実現、核兵器廃絶には外交が重要とい

うことを学べた」、「お互いに核兵器を持つことで、使用を思いとどまると言われていたが、今回のロシア軍のウクライナ侵略で、『先に使用を宣言した方が有利』という核抑止論の矛盾を垣間見た。やはり、持たないが正しい選択だと感じた」など、話し合いました。

来年は、長崎大会です。たくさんの方々が参加し、核兵器の危険性と平和を考える機会にしていきたいと思います。



参加者で感想交流

る。平和の実現、核兵器廃絶には外交が重要とい



大会宣言

来年は、長崎大会です。たくさんの方々が参加し、核兵器の危険性と平和を考える機会にしていきたいと思います。

(耳原代表団

団長 横山 健)